

様式第1（第15条関係）

会議の名称	平成30年度第1回和泉市福祉でまちづくり委員会
開催日時	平成30年7月31日（月） 午後2時から午後4時
開催場所	和泉市立コミュニティセンター 4階視聴覚室
出席者 （敬称略）	<p>【委員】</p> <p>桃山学院大学 社会学部 社会福祉学科 准教授 梅谷 進康          和泉市社会福祉協議会 会長 有里 榮陽          和泉市町会連合会 副会長 宮本 英昭          和泉市民生委員児童委員協議会 会長 一井 正好          和泉市老人クラブ連合会 会長 門林 淳          和泉市医師会 副会長 奥村 聡彦          公募市民 芦田 三雄</p>
議案等	<p>報告</p> <p>①第4次和泉市地域福祉計画策定について          ②第3次和泉市地域福祉活動計画における平成30年度事業計画について          ③第4次和泉市地域福祉活動計画策定について          ④いきいきネット相談支援センター 平成29年度活動報告について</p> <p>議題</p> <p>第4次和泉市地域福祉計画策定に係る市民アンケート（案）について</p>
会議録の 作成方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録



	<p>また、当事者の方の声を計画に反映させるため、福祉関係団体等へのヒアリングを実施します。</p> <p>今後の大まかな流れとして、まずワークショップについて、7月20日に市内の地域ボランティアや関係機関を対象に第4次和泉市地域福祉活動計画策定に係る全体説明会を開催しました。今後、7月～9月にかけて第1回目の各小学校区別ワークショップ、9月～11月にかけて第2回目の各小学校区別ワークショップを開催していきます。各小学校区別のワークショップの詳細につきましては、このあと報告③で和泉市社会福祉協議会からご説明させていただきます。</p> <p>次に市民アンケートについては9月に実施予定です。この後、議題のほうで詳細について、改めてご説明させていただきます。</p> <p>更に8月から9月に福祉関係団体等へのヒアリングを実施します。</p> <p>そして、各小学校区のワークショップ、市民アンケート、福祉関係団体等のヒアリングを経て10月から11月に計画の素案を作成し、12月に地域住民の声をより計画に反映させるためにパブリックコメントを募集します。</p> <p>パブリックコメントを経て、計画の最終案を作成し、平成31年2月に開催予定の地域福祉計画の進捗管理を諮る機関であります、平成30年度第2回和泉市地域福祉推進協議会に最終案を示す予定でございます。</p> <p>事務局からの報告は以上です。</p>
梅谷委員長	<p>報告①の説明が終わりました。</p> <p>質問・意見等がありましたら挙手をお願いいたします。</p>
芦田委員	<p>福祉関係の団体へのヒアリングということですが、計画されている福祉団体はどういうところになるのでしょうか。</p>
事務局	<p>第3次和泉市地域福祉計画を策定した時にも同じようにさせていただいたのですが、和泉市障害者団体連絡会さんや子育て世代の方の声を拾うために母子福祉会さんにヒアリングをさせていただいたり、子育てサロンに赴いてそちらの声を聞かせていただくことを考えております。</p>

芦田委員	障がい者団体のヒアリングは、非常に大事だと思っているのですが、先日、ある会に出た時に実際、防災を含めて作業所との関わりが見えていなかった部分がありました。そういう関わり合いが日常的に必要なと思いましたので、少しお考えいただけたらと思いました。
梅谷委員長	計画策定において基礎となる資料は、具体的にはこの後説明があります市民アンケート、それから芦田委員にご指摘いただいたヒアリング、そしてこの後また説明のあるワークショップ、後は関係各課の事業評価の照会の4つはたぶん計画策定においては基礎的な資料になると思います。その4つを見た時にアンケートとワークショップについては、ペーパーとして資料がありますが、今、芦田委員からご指摘いただいたヒアリングについて、ペーパーがないので、このような計画策定においては基礎となる資料ですので準備していただく方がいいと考えております。
事務局	今、ヒアリングシートや事業評価シートは作成しております、第2回目の会議でお示しできればと考えております。
梅谷委員長	あわせて事業評価についても、こういった形で進めていくのかについて、今後の委員会の中でペーパーとして提示していただければと思います。
梅谷委員長	では、報告②「第3次和泉市地域福祉活動計画に係る平成30年度事業計画について」を事務局から説明をお願いします。
事務局	和泉市社会福祉協議会の坂本でございます。私からは報告②「第3次和泉市地域福祉活動計画における平成30年度事業計画について」をご説明させていただきます。資料3ページ目、第3次和泉市地域福祉活動計画における事業計画進行管理シート、こちらを見ていただけますでしょうか。和泉市社会福祉協議会ではピンク色の第3次和泉市地域福祉活動計画に基づき、事業を進めてまいりました。今年度が第3次地域福祉活動計画の最終年度となっておりますので、5年間の集大成といたしまして、平成30年度の事業は進めつつ、第4次地域福祉計画、第4次地域福祉活動計画の策定についても、同時進行で進めてまいります。まず、平成30年度はこのように進めていく計画の部分について資料を見ながらご説明させていただきます。こちらの表の見

方ですが、一番上の目標①「一人の困ったをみんなの良かったにできるまちづくりを目指そう」②「安心安全に暮らせるようにみんなが繋がり支え合おう」また次のページに目標③と④があるのですが左の項目から順に基本目標と施策、事業内容、そして右側の欄に平成30年度の実績と数値目標を記載いたしまして、年度末に評価しやすいように作成をしております。時間の都合上、すべてをお伝えすることができませんので各目標から一部抜粋し、説明させていただきます。それでは目標①「一人の困ったをみんなの良かったにできるまちづくりを目指そう」の部分から各種取組みについて説明して参ります。地域住民の皆様、また地域の関係機関にご協力いただきまして社協として特に力を入れて動かししておりますものが一番上に記しております(1)の①「地域の課題を定期的に話し合える協議の場づくり」です。協議の場、いわゆる地域住民や関係機関が集まって、小学校区単位で地域の情報交換や地域課題を定期的に話し合う場が和泉市内において、全21校区で設置できました。ただし、すでに協議の場が設置されている校区の中で、平成29年度中に1度も協議の場を開催できなかった校区も3校区ございました。できなかった事情はそれぞれですが、社協も内容を把握しておりますので、平成30年度においては、引き続き校区と調整させていただきまして再開に向けて支援をまいります。また課題解決に向けた活動支援の項目では、各校区において、協議の場での話し合いから具体的な実践活動が様々取り組まれておりますので、そちらに関しても継続して支援を参ります。その他目標①の各施策につきましては、社協全体、また地域にある他の専門機関の協力の下、地域福祉活動計画の策定を進めてまいります。続きまして、目標②「安心安全に暮らせるようにみんなが繋がり支え合おう」の部分では、地域の防災力の向上や地域情報の収集、共有発信について記載をしております。6月18日に発生した大阪北部地震や6月末から7月にかけて発生しました豪雨災害では甚大な被害が出たことが委員の皆様の記憶にも新しいと思いますが、地域住民もまた地震や大雨などの災害について、心配される声や関心が高くなっております。校区によっては、社協の補助金を活用し校区内での防災研修、訓練を企画している校区や防災グッズの展示会、見学に行かれた後に校区において防災でどのように対応するか、取り組んでいくかを協議するための材料とされた校区もございます。すでに災害時における対策につきまして、取り組んでいる校区もありますが、より災害時についての意識づけを他校区にも広げていきたいと考えております。

また、校区社協に登録されているボランティアさんやアイ・あいロビーに登録されているボランティアさんとも連携しながら災害時に対応できる支援体制を整えていく予定でございます。

続きまして、資料4ページをご覧くださいませでしょうか。こちら目標③「一人ひとりの力を地域で生かそう」という部分につきましては、(3)の①、福祉教育市民学習につきまして、福祉教育の実施では、小学校の先生方と打ち合わせをしながら、子どもたちの福祉の視点を養っております。昨年度実施いたしました、福祉きっかけ講座、小学生向けの講座ですが、実際に国府小学校4年生の約160名位が総合福祉会館を見学した後、もっと社協や総合福祉会館について知りたいというところで聞き取り学習にもこられました。またアイ・あいロビーが関わった福祉教育を含めると盲導犬についての講座や点字講座、障がい者の当事者団体の講座、車椅子、アイマスク、高齢者疑似体験といった方法で福祉教育に取り組まれている学校がございます。今年度も福祉に関心を持つきっかけ、また福祉を担う人材となるきっかけになるよう市内の学校と連携をして参ります。他にも社協が実施している年輪大学で地域福祉についての講座を開催いたしまして、受講された方は学んだ地域に還元していただきたいとお伝えをさせて頂きました。これからも地域で活躍する人材育成の観点から福祉教育と市民学習の推進をして参ります。また施策(3)の②「ボランティアの育成、新たな住民層の参加拡大」をしていくためには、ボランティアの担い手を増やすための養成講座などの充実を図ります。具体的には平成30年度の校区社協ボランティアの主要目標を「ボランティアの魅力を伝えよう」に設定しておりまして、平成29年度末で1,350名ほどであった校区社協ボランティアの登録者数を今年度末には1,400名となるように取り組んでまいります。最後に目標(4)、「SOSをキャッチしてつなぐしくみを充実させよう」の部分では、目標(4)の①「総合的な相談支援体制の充実」について、周知の面では「社協いずみ」広報誌ですね、そして社協誌の行事、ホームページ等で周知を行いました。また、今年度は新しい方法での社協の周知、情報発信というところで社協のfacebookページのほうを開設しました。なかなか広報誌や行事などでは、今まで社協と繋がることのなかった年齢層や団体さんにも社協をPRしていきたいという考えからfacebookを開設しました。SNSという媒体を通じまして、地域にある相談窓口にしても社協をPRしていきたいと思っています。時間の都合上、割愛した部分もございませが、平成30年度目標をできる限り数値で

	<p>表している形でございます。</p>
<p>梅谷委員長</p>	<p>報告②の説明が終わりました。 質問・意見等がありましたら挙手をお願いいたします。</p>
<p>芦田委員</p>	<p>協議の場に私も出ておりますので、良く存じており、非常にいろいろな意見が出ていると感じています。我々の思いが出ている部分があるので、推進したりまとめていきたいと思っておられる社協から見て、もう少しこうしてほしいとかこういうことを引き出してほしいというようなご希望みたいなものがあって、我々がもう少し勉強しなければならぬことがあったら逆に教えてほしいです。</p>
<p>事務局</p>	<p>芦田委員がおられるのは光明台南校区だと思うのですが、他の校区さんを見ているところで言いますと、校区での各種団体の長である方が単年度で代わることがルールとして存在しているところがございませう。社会福祉協議会からも前年度の報告などをさせていただいているのですけれども、校区の中で引き継ぎをしっかりとさせていただくことによって校区としての活動が継続されます。逆に言うと、引き継ぎがきちんとされていないと前年度やっていたことを全く知らなくて、一からお伝えするような形になってしまうので、そこは活動継続ということ考えると引き継ぎを事務局としても支援させていただきたいし、校区の中でもしていただければということが事務局としての思いでございます。</p>
<p>芦田委員</p>	<p>その辺はやはり続けていくということを我々の方がしっかりやらないといけないという気がありますので、大事なことだと思います。</p>
<p>梅谷委員長</p>	<p>引き継ぎと関連して、今回、30年度の計画を提示していただいていますけれども、29年度の総括や課題、できたことなどは社協の中ではまとめておられるのでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>そちらに関しましては、和泉市地域福祉推進協議会で進捗管理を行っておりますので、そちらでご報告をさせていただいている形になっております。</p>
<p>梅谷委員長</p>	<p>30年度の計画をこういう形で出されることは大事なのですがけれど</p>

	<p>も、29年度はどういう課題が残ったのか、あるいはできたのかということが見える形になって、30年度をこういう風な目標立てになっていますという、つながりが見えると私自身も管理シートをより理解しやすくなります。31年度からでも結構ですのでそのような形にしていいただければいいなと思います。</p>
梅谷委員長	<p>では、報告③「第4次和泉市地域福祉活動計画策定について」を事務局から説明願います。</p>
事務局	<p>和泉市社会福祉協議会の阪本から報告③「第4次地域福祉活動計画策定について」をご説明させていただきます。資料5ページをご覧ください。こちらは、第4次和泉市地域福祉活動計画の策定スケジュールとなっております。先ほど市が提示されたスケジュールと重複する部分もありますが、社協においては、ご覧の資料に沿って和泉市地域福祉活動計画の策定をして参ります。策定工程の一段目、ワークショップについて、小学校区単位で第4次活動計画に地域住民の声を反映させるものとなっております。すでに7月20日には第3次活動計画の振り返り及び第4次活動計画の策定にかかる説明会として各校区へ10名ほどの参加を呼びかけ、全体説明会を実施しました。校区別ワークショップについては、この後詳しく説明しますが、和泉市内21小学校区において2回ずつ計42回のワークショップを開催予定です。続いて策定工程の2段目、市民アンケートについて、こちらも先ほど市から説明があったとおり、ワークショップに参加されない地域の方の意見も市民アンケートから第4次活動計画に反映するものとなっております。策定工程の3段目、パブリックコメントについても同様で第4次活動計画の素案を策定しますが、それに対し地域の方からご意見をいただく予定となっております。</p> <p>続きまして策定工程の計画書策定の部分ですが、こちらに関しては、第4次活動計画の策定を表しており、社協の内部において第4次活動計画を策定するために、プロジェクトチームを立ち上げ組織しております。第4次活動計画は社協が一丸となって推進していくものとなっております。各部署から一名ずつメンバーを選出することにより、随時プロジェクトチームが各部署において第4次活動計画の策定の状況を伝え、各部署からも意見を反映させるための機能を持たせることを目的としています。プロジェクトチームの動きとしましては、第4次活動計画の骨子、体系の検討を行いまして、また施策の検討も行</p>



います。もちろんその中には校區別ワークショップにおいて各校区から上がってきた意見も反映して第4次の活動計画におきまして、5年後にどのような校区になっていきたいのかという目標をまとめます。また、第4次活動計画の原案のまとめや計画書の編集、構成も進めていきます。同時に第4次活動計画を簡潔にまとめた概要版の作成もしてまいります。策定工程の2段階目ですが、地域福祉推進協議会や福祉のまちづくり委員会におきまして、委員様からいただきましたご意見についても、随時反映、参考にさせていただきたいと思っています。

続きまして資料の6ページ、校區別ワークショップの内容と日程について、ご覧ください。先ほどの第4次和泉市地域福祉活動計画策定スケジュールにおきまして、校區別のワークショップに少し触れましたが、こちらで内容と日程を詳しく説明します。(1)の目的について、こちらは第4次活動計画において地域の方の声を反映させるための場を校區別ワークショップの目的としています。これは、地域の方を主体としましてその地域の生活の困りごとや福祉課題とその課題を解決していくための取組みについて、意見交換を行い、和泉市内21小学校区におきまして、それぞれ第4次活動計画における5年間の計画、アクションプランを策定していくためのものとなっております。ワークショップでは会議のような堅苦しいものではなく、参加者同士で作業しながら話し合うことで一人ひとりの意見を引き出せるようにして参ります。

次に(2)の実施回数ですが、先ほど平成30年度の事業計画について少し触れましたとおり、21小学校区におきまして地域課題を定期的に話し合う協議の場がございますので、協議の場を使って校区ごとに2回ずつ実施する予定でございます。なお、校区によっては2回ずつだけではなく、それ以上に協議し、校区の方向性を定めたいと考えているところもございますので、基本的には2回としつつ、それ以上にワークショップが開催される校区もあります。

続きまして(3)の実施時期ですが、おおむね1回目を7月末から9月にかけて、2回目を9月から11月にかけて実施する予定で、今現在もう既に決まっているところもありますが、社協と校区で日程を調整しております。開催場所につきましては、各校区で協議の場が参加されている場所となりますので、地域の会館や老人集会所、小学校において実施される予定です。

(5)の参加者につきましては、基本的には協議の場に参画するメンバーとなりますが、第4次の活動計画において校区の5年間の方向性や

目標を話し合う場となりますので校区によっては通常の協議のメンバーにさらに地域の各種団体を含めた参加者でワークショップを実施される予定の校区もあります。おおよそ、各校区15～40名程度の参加者となっており、そこに地域の関係機関である地域包括支援センター、いきいきネット相談支援センター、市の福祉総務課や社会福祉協議会も参画をいたします。

(6)の協議内容について、1回目に第3次活動計画の振り返りを行い、第4次活動計画に引き継ぐべき活動はどれか、また新たな課題はあるか検証し、2回目で第4次活動計画における校区別のアクションプランを作成予定です。なお、実施回数の部分でも説明いたしましたが、校区によっては3回、4回とワークショップを重ねられるところもありますので、基本的にはこちらの内容で協議するということでございます。

続きまして、資料の7ページをご覧くださいませでしょうか。こちらは現在校区とのワークショップの調整状況を表したものとなっております、左側からその校区の圏域とその校区、1回目のワークショップの日程、2回目の日程、実施時間と場所となっております。南松尾はつがの校区、緑ヶ丘校区におきましては既に、第1回目のワークショップを実施いたしまして、第3次活動計画の振り返りを実施いたしました。今現在、資料上では、12校区において1回目のワークショップの日程が決まっている状況ですけれども、各校区ではワークショップの日程調整の依頼を既にしておりまして、記載のない9校区についても随時7月から9月にかけて1回目のワークショップを実施していただくこととなっております。

以上で社協からの説明を終えますが、第4次和泉市地域福祉活動計画策定にかかるスケジュールとワークショップについてご意見いただけたらと思います。

梅谷委員長

報告③について意見等がありましたら、挙手をお願いいたします。

芦田委員

今のお話の中では、協議の場で各地域の中のいろいろなメンバーに関わっていただけるということで我々もきちんと意見が出せると思っているのですが、それだけではなくてむしろ和泉市全体のこれから5年後どうあるべきかという、大きな見方をしたらこうありがたい、こうあろうという大きな展望、方向のようなものを見ないまま、我々だけの話でまとまっていくのもどうかなと思います。むしろ子育て

	<p>てしやすいとか、福祉の充実したまちづくりができている和泉市という大きな方向性の中で具体的にこういうことをやっていこうという市の方向もあるだろうし、それもうまく出してもらいながら自分たちの意見もどんだんぶつけ合えるような部分もあってほしいという気がします。我々だけがこういうことをしてほしい、あんなことをしてほしいというだけでは範囲が小さくなる可能性があるという気がしています。</p>
梅谷委員長	<p>和泉市においても当然のことながら総合計画を策定されていますよね。和泉市としてこういう市を目指すということが総合計画に書かれているはずですので、住民協議の場で話し合う時に長い時間でなくていいと思いますので情報提供としてお伝えするというのも一つの方法としては考えられるのではないかなと思います。</p>
事務局	<p>そちらについては、各校区のワークショップの1回目の振り返りで事務局から説明として反映させていただきます。</p>
梅谷委員長	<p>それから基本、協議の場で参画するメンバー中心に他の参加者ということだと思いますが、例えば子育て世代や共働き世代がワークショップに参加できるような配慮はされているのでしょうか。</p>
事務局	<p>協議の場へは、校区によって子ども会の代表さんなどに出席いただいているのですが、なかなか平日の日中に開催するとなると、直接的にお母さんたちの声などを拾いにくいということがございます。普段、協議が平日に開かれているところでも、記載以外の決定したワークショップに関しましても、土曜や日曜の晩など、参加いただきやすい時間帯を優先し、子育て世代の方などが参加しやすいよう配慮しております。</p>
梅谷委員長	<p>当然のことながら、今言ったような子育て世代、共働き世代の方々のご意見をいただくということも地域福祉においては重要ですので、そういったところの配慮を引き続いてお願いいたします。</p>
梅谷委員長	<p>報告④「いきいきネット相談支援センター 平成29年度活動報告について」事務局より説明をお願いします。</p>

事務局	<p>和泉市社会福祉協議会いきいきネット相談支援センターの岩下でございます。このたび資料を作成するにあたって数の間違いがありました。申し訳ございません。修正版をご用意していますのでそちらをご覧ください。それではCSWから平成29年度の実績報告をさせていただきます。</p> <p>まず、第3次地域福祉計画の中でのCSWの役割について、簡単に説明させていただきます。青色冊子の75ページをご覧ください。重点取組の一つである総合相談ネットワークの充実としてCSWの役割が図で示されています。CSWは福祉の総合相談窓口として位置づけられており、あらゆる相談に対応し、必要な支援につなぐ役割を担ってきました。</p> <p>では8ページをご覧ください。平成29年度CSW相談実績です。平成29年度の相談実数は648件でした。男女比を比べると女性の方が多くなっています。相談経路では、本人が24,7%、家族が15,3%、地域が22,4%。地域の内訳としては民生委員・児童委員、ボランティア、町会・自治会関係者、友人、知人などからの相談です。行政その他の専門機関が33,3%となっています。また年代別の傾向を見ると、20代から50代の稼働年齢層が多く、全体に占める役割は約37%となっており、昨年度と比較すると特に40代前後の相談が増えています。</p> <p>次に9ページをご覧ください。対象者別相談件数では、高齢者264件で41%です。続いて、障がい者が135件で20%、障がい者手帳未取得者73件で11%です。子育て・教育、一人親家庭、青少年を合わせると66件で全体の10%です。障がい者に関する相談では、精神障がいの次に障がい者手帳未取得者の相談が多くなっています。その他100件では、当てはまる項目が無い稼働年齢層や、生活困窮になる恐れがある人などが含まれており、全体の約15%となっています。</p> <p>内容別相談件数では、生活の相談が最も多く282件で44%です。生活の内訳としては、家事全般、手続き行為、介護疲れ、日常生活そのものに課題や困りごとがある相談内容になっています。福祉制度、サービス214件で33%、健康医療196件で30%です。社会的孤立、ひきこもりや不登校を含む96件で15%、高齢の閉じこもりは39件で6%となっています。その他235件では、家族関係、近隣トラブル、コミュニケーションに課題がある、将来の不安などが含まれており、全体の約36%となっています。生活やその他の相談に</p>
-----	--

については、制度につなぐだけでは解決できない問題が多く含まれています。続いて10ページをご覧ください。全相談者に占める生活困窮者の割合を示したものです。既に生活困窮にある人、生活困窮予備軍、生活保護受給者を合わせると34,7%です。また、全相談者の社会的孤立の割合は、14,8%です。年代別では、20代から50代の稼働年齢層に占める割合は全体の約53%となっています。以上のことから20代から50代の若い世代の人が生活困窮や社会的孤立状態に陥っている割合が高齢の世代より圧倒的に多くなっています。高齢者には介護保険などの社会資源が増えていますが、このような世代の人達が活用できる社会資源やサービスはととても少ないのが現状です。社会から孤立してしまうと、貧困の課題に結びつきやすいことも分かりました。

私たちは、若い世代の人達への支援の充実を目指し、生活困窮者や社会的孤立状態にある人達への支援についても、どういった支援が必要なのかを考える中で、生活困窮者支援のネットワークづくりとして、①「課題整理と発信」②「関係機関との連携強化」③「社会資源の活用」この3つに焦点を当てて活動を進めています。実践として、生活困窮者や社会的孤立状態にある人への支援として取り組んでいる社会的居場所づくりプロジェクトがあります。

それでは14ページをご覧ください。平成29年度CSW活動報告「あなたの困ったに地域の身近な相談窓口」というものです。社会的居場所づくりプロジェクトとは、ひきこもりの人や人との関わりが苦手な人達がCSWや桃山学院大学の学生と外出やイベントなどへの参加を通じて、人との関わりを持ち、社会参加のきっかけを目指していくための活動です。今年度もこのプロジェクトを継続し、その人の自立に向けた支援につないでいけるように取り組むたいと考えています。最後に私たちCSWは相談しやすい環境づくりのために、今後も地域活動に積極的に参加し、地域の人との顔の見える関係づくりや関係機関との連携強化、また周知活動も継続していきたいと考えています。

梅谷委員長

報告④について、意見等がありましたら、挙手をお願いいたします。特徴とすれば、修正版の10ページにありますように、生活困窮状態や社会的孤立状態にある20代から50代の人達が5割を超えていたということですね。

事務局	はい、そうです。
芦田委員	CSWさんがいろいろ活動されて、毎回、相談の数が増えているのを実感してきています。その中でひきこもりの方をどう引っ張り出せるか一生懸命苦勞されている話を私も直接、具体的に聞いたので、このデータは我々が見られなかった部分を見られてすごいと思いました。こういうことがみんなに伝わって行って、何か自分たちに出来ることがないか考えるきっかけになりそうだという気がしました。
門林委員	CSWさんの今までの活動は、いろいろ聞かせていただいている、今日このデータを見せていただきました。今まで高齢者のことばかり言っていましたけれども、生活困窮状態の表を見ますと、生活困窮や社会的孤立状態に陥っている方は高齢者よりも20代から50代の若い世代のほうが多いことがわかりました。あまり高齢者ばかり言っていられないということと、子育て世代の方も大変だと思いますので、みんな公平にいろいろ考えなければいけないというのが実感です。
梅谷委員長	もちろん高齢者への支援も重要ですが、このデータを見ましたらそれ以外の世代の方への支援も重要であるということが見えてくる統計資料だと思います。こういったデータを市民と共有する機会はあるのでしょうか。
事務局	民生委員さんやボランティアなど地域の様々な会議に参加させていただくことが可能であれば行かせていただいたり、また相談会を各校區で開いているところもあるのですが、概要版をそういった活動の時に配布して説明させていただき、各年齢層の方への支援の必要性を伝えるような周知活動もしているところです。
梅谷委員長	社会的な雰囲気として高齢者の方に支援は必要で、子育て支援も必要で、子どもさんに対しての貧困予防や虐待予防が必要だということはいずれ市民の方もご存じだろうと思うのですが、今回のデータのように20代から50代の人の支援が必要という状況はなかなか一般的に知られていないところもあるかと思いますので、ぜひ積極的にそういった場に出かけて、情報提供していただければと思います。それと合わせてCSWの普段の活動が今後、地域福祉計画と地域福祉活動計画を策定する上で意見交換する場というのは現状ではありま

事務局	<p>すでしょうか。</p> <p>福祉総務課の井上です。計画策定において、CSWさんやその他の地域包括支援センターのような専門機関をヒアリングすることが必要かと考えております。</p>
梅谷委員長	<p>是非前向きに検討していただければと思います。よろしくお願いします。その他、この報告につきまして何かご質問等はございますか。</p>
門林委員	<p>この平成29年度CSW相談実績の資料が私には大変参考になりました。この資料を老人クラブに配布することは問題がございますか。</p>
事務局	<p>配布していただけることは非常にありがたいですし、ぜひお願いしたいのですが、この概要版を見ただけでは、なかなか内容が伝わりにくいかと私たちも考えております。できましたらそういった会に出席させていただいて、ご説明させていただきながら資料配布という形をとらせていただければありがたいと思っております。そのあたりご検討よろしくお願いいたします。</p>
門林委員	<p>私どもも毎月校区会長会議を開いておりまして、その時にみんなに理解してもらいたいという内容でございますので、また日程調整させていただければと思います。</p>
宮本委員	<p>緑ヶ丘校区はこういう内容ではないと思いますが、これは全体のことですよね。</p>
事務局	<p>緑ヶ丘校区担当の廣瀬です。概要版を用いての説明は、この間させていただいたので、今日使ったこちらの数の資料は、私も校区では説明しておりません。次回、説明させていただけるとありがたく思います。よろしくお願いいたします。</p>
宮本委員	<p>緑ヶ丘校区では毎月、校区長会議があつて、社協の時間を1時間ほどとっています。会議には、子ども会と老人会を除くほとんどのメンバーが参加しています。校区には、5つの町会・自治会があり、そのうち3つは会長が毎年変わります。また自治会長さんに女性が3名おり</p>

<p>梅谷委員長</p>	<p>ます。若い世代の人が多いので、会議はなるべく土日開催するようにしています。これからは、若い人に浸透するような引き継ぎをやっていかないとその年で終わってしまって、各町会で次の会長さんにこういう内容でやっているということを伝達してもらわないとわからないと思います。そのあたりがわかるような資料を最後に集約していただいて、次の会長さんに渡してほしいと言っただけであればまたそれを見ていただいてまた発言も増えるのではないかと思います。</p> <p>基本的にどの分野、どのような活動につきましても、引き継ぎは非常に重要なので、ご協力をよろしくお願い致します。</p> <p>そうしましたら報告事項に関しては以上です。今回ご報告いただいた内容で決定という形にさせていただこうと思うのでよろしくお願い致します。</p> <p>続きまして、議題「第4次和泉市地域福祉計画策定に係る市民アンケート（案）について」を事務局より説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>福祉総務課の井上でございます。</p> <p>私から「第4次和泉市地域福祉計画策定に係る市民アンケート調査（案）について」をご説明させていただきます。資料16ページをご覧ください。</p> <p>まず、市民アンケートの調査目的についてですが、計画策定のための基礎資料として活用することを目的に、一般市民を対象に地域福祉推進についての評価や地域福祉に対する考え方、活動状況等を把握するため実施するものです。</p> <p>次に調査の概要についてです。調査の対象は、平成30年9月1日現在の和泉市内在住で18歳以上の方、調査方法は、郵送により調査票を配布・回収します。</p> <p>調査期間の予定としまして、平成30年9月13日から平成30年9月30日、調査対象者は3,000人です。</p> <p>次に調査対象者の抽出方法です。案①として無作為に3,000人を抽出。案②として各小学校区で例えば100件など同数の母数を決め、残りを市内総人口の比率により按分し、抽出。案③として、市内を4つ程度の圏域に分け、等分で抽出する方法。いずれの抽出方法につきましても、一世帯で1名までとします。</p> <p>最後に調査項目についてです。資料17ページをご覧ください。大き</p>



	<p>く4つの区分に設問を分け、区分①として「あなたやご家族のことについて」、区分②として「地域について」、区分③として「生活課題や福祉について」、区分④として「地域福祉にかかわる機関や団体、しくみについて」で、合計55問の設問でございます。</p> <p>この後、委員の皆様にご審議いただきたいのは一つ目が調査対象者の抽出方法。二つ目が調査項目についてです。案としてお示しさせていただいた設問以外に設けた方がよい質問や不要な質問など忌憚のないご意見をいただけたらと思います。</p>
梅谷委員長	<p>議論すべきポイントが2点ということです。まず1点目ですが、16ページの調査対象の抽出方法として、案①から③がありますが、事務局としてメリット、デメリットなどを説明していただけたら助かりますのでお願いします。</p>
事務局	<p>ジェイエムシーの小路と申します。今回、お示しさせていただいている対象者の抽出方法のそれぞれのメリット、デメリットについて簡単にですがご説明させていただきたいと思っております。</p> <p>まず、1点目の無作為抽出の場合ですが、メリットは市全体の性別や年齢別などでの人口構成を加味した形での調査を実施することができ、それぞれの傾向を分析し、把握することができる点。デメリットは人口の多い地区の人が選定されやすくなりますので、人口の少ない地区の意見につまましては反映されにくいといった可能性があると考えられます。</p> <p>2点目の各小学校区別でのメリットとしては、自由意見等で地区ごとの意見を募ることができるということが出来る点。デメリットは、地区ごとに配布件数が100件ないし150件程度になり、回収率を考慮すると50件程度の回収となりますので、そのまま地域の意見として挙げるのもどうかということが挙げられます。ただし、前回調査と比較するという意味では同じように小学校区域別に対象者を選定しておりますので、こちらの方法を用いるのがいいという考えもあります。</p> <p>3点目の圏域を4つ程度に分類して対象者をそれぞれ選定するという方法ですが、これは先ほどの2点の間をとったような形のイメージになりますので、それぞれのデメリットを補った形での調査ができると考えております。ただし、デメリットとしては人口の少ない地域の意見が反映されにくいという点がありますので、その辺を考慮する必</p>

	<p>要があると考えます。</p>
梅谷委員長	<p>確認ですが、前回のときのアンケートでは2番目の抽出方法でした。そして社協さんの活動計画では校区別にアクションプランを作られているというところがありますけれども、特に社協さんで抽出方法に関する意見はありますか。</p>
事務局	<p>今現在、検討中ということでお答えさせていただきます。</p>
梅谷委員長	<p>抽出方法について、難しい案件ですけれども委員の皆様から何かあればよろしくをお願いします。</p>
宮本委員	<p>私個人としては、市が全体で大きなプロジェクトをするのならやはりアンケートの回収率を上げないといけないと思います。アンケートを3,000出すのであれば、回答したら何かあげるなどして7割ぐらい回収できるような方法を考えた方がよいのではないかと思います。</p>
梅谷委員長	<p>前回調査の回収率はどのくらいだったのでしょうか。</p>
事務局	<p>事務局の井上です。参考でお配りしております青色冊子の81ページに第3次地域福祉計画と活動計画を策定させていただいた時のアンケート調査結果の概要について載せているのですが、一般市民の方を対象にしたアンケートにつきましては39.3%という結果になっております。</p>
梅谷委員長	<p>39.3%ということですが、有効回答率というのは近隣の他市と比べてどうなのでしょう。</p>
事務局	<p>他市の状況は確認できていないのですが、一般的に40%以上を超えればそれなりの回収率と考えております。</p>
梅谷委員長	<p>社会調査の場合は40%を超えれば高い回収率ですが、市が出しているアンケートだと一概に40%で高いとは言えないと思います。私に関わっている他市の調査ですが、50%を超えているぐらいの有効回答率がありました。回答しやすい方法を考えるということは大事ですので、先ほどありましたような謝礼をつけるということは行政として</p>

	<p>難しいのだろうとは思いますが、それ以外の回答しやすい工夫は必要になるとは思いますが。質問数が多すぎるとなかなか回答していただけないということはあると思います。</p>
<p>芦田委員</p>	<p>アンケートと校区別のワークショップ、各種団体のヒアリングと3つぐらいが資料作りのベースとして出そうとしていますが、地域のことは地域の中で課題として上がってきて見えてくる部分があると思うので、むしろ全体を見られるような方がいいのかなという気がします。地域別に見える部分がたくさん出てくると思います。今デメリットであったように、数の多いところの意見が主になってくるので、見えにくい部分があるかなと。数の少ないところは見えにくくなると。市全体の課題がうまく出てくる方法が良いと思います。</p>
<p>梅谷委員長</p>	<p>今あった意見は地域の課題はワークショップを利用して解決し、アンケートでは市全体の問題が浮かぶような形にした方が良いという意見ですね。</p>
<p>芦田委員</p>	<p>内容はまだ詳しく見ていないのですが、地域の問題はワークショップで出てくる部分があると思います。地域性と全体を見たいというアンケートをとる側の意図はどのようになっているのでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>事務局の井上です。事務局としては前回実施したアンケート方法と同じように各小学校区の意見を取り入れたいと思っています。確かに協議の場で地域の声は聞けるのですが、先ほど委員長のお話しにもあったようになかなかその場に来られない方もいらっしゃると思いますし、また市が立てる計画と社協さんの活動計画はどうしても小学校区になってくるので、市としては案②で実施できればと思っています。</p>
<p>梅谷委員長</p>	<p>ちなみに案③の市内を4つ程度の圏域に分けるとありますが、具体的な分け方の案はあるのでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>和泉市に地域包括支援センターが4つございます。これは生活圏域として、概ね1つの圏域に中学校区が2つぐらい入るような形で分けておりますので、こちらに倣ってできればと考えております。</p>
<p>梅谷委員長</p>	<p>なかなかこの3つの案について、これがベストだというのを出すのは</p>

	<p>難しいと思いますが、先ほど事務局から説明がありましたように今までの継続性ということを考えますと、前回も小学校区でやっていたことと計画を立てる上で小学校区別のデータが必要になるという状況を鑑みたら抽出方法については案②でいくということでしょうか。</p>
<p>宮本委員</p>	<p>私はそれでいいと思います。</p>
<p>芦田委員</p>	<p>はい。</p>
<p>梅谷委員長</p>	<p>それでは案②で進めるということでお願いします。 では、17ページの質問項目についてのご意見がありましたらお願いします。 先に私から質問します。このアンケートはいつ実施するのですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>資料の16ページの2の調査概要にありますように、9月13日から9月末までの予定となっております。</p>
<p>梅谷委員長</p>	<p>ということは、まだ修正する期間はあるということですね。私からなのですが、ボランティアについての質問項目が少し少ないのではないかと思います。地域活動がボランティアと類似したものですからそれも含めて考えていらっしゃるのかと思うのですが、地域活動に関しては2の地域のところにいろいろありますが、それに対してボランティアに関する質問項目は災害ボランティアを除くと2つぐらいしかありません。ブルーの冊子の76ページにもありますように第3次地域福祉計画の重点項目にボランティア活動の推進が挙げられているので、第4次でも何らかの形で入ってくると思うのですが、アンケート項目であまり触れられていないのもう少し入れた方がいいと思います。具体的には地域活動のところで参加しない理由や参加意向という質問項目が設けられていますので、それと類似した項目を設けてもよいのではないかと思います。</p>
<p>門林委員</p>	<p>例えばCSWといった一般の方は理解していないような難しい言葉が入っていますので、平易な言葉に代えるか説明書きをつけないとアンケートに答えられないと思います。</p>

梅谷委員長	<p>そのとおりだと思います。</p> <p>やはり一般的には、なじみのない言葉につきましては補足説明を入れたり、平易な言葉を併記するような配慮をお願いします。</p> <p>実際アンケートが出来た時にその質問紙の内容をチェックする時はあるのでしょうか。一度、ある程度の人数で回答をしてみると分かりづらい言葉や明らかに選択肢がおかしいものが見えてくると思いますが、プレ調査のような機会は設けているのでしょうか。</p>
事務局	<p>実際に自分たちでやってみるということは想定していなかったもので、何人かでやってみようと思います。また、次回の8月にはアンケートの設問と回答を委員の皆様にご覧いただきまして、ご意見をいただければと思っております。</p>
梅谷委員長	<p>その質問紙について、私も全体に目を通しますので、できれば1週間ぐらい前に送っていただければ、じっくり見る時間がありますのでよろしく願いいたします。</p>
芦田委員	<p>いま質問項目に目を通していたのですが、自分の意見を書くという部分はどのようにすればいいのでしょうか。例えば4-20の「行政と住民との協働についての評価」とありますが、自分はどう書けばいいのか分からなかったのですが、どういう形で答えを出したらいいですか。</p>
事務局	<p>そうですね。回答としましては出来ているとか進んでいるとかいった項目が回答として出てくるのかなと思います。</p>
芦田委員	<p>私は行政のことに関わったりしていますが、一般の方がこういう設問で評価できるようなものをもっているのでしょうか。こういった評価が多いので、回答することがしんどくなっていくのではないのでしょうか。</p>
梅谷委員長	<p>まず前提の確認ですが、項目に書かれていることがそのまま質問の文言として使われるのですか。</p>
事務局	<p>あくまで案ですので、わかりにくければわかりやすい言葉に直して作成していきます。</p>

梅谷委員長	選択肢にどのようなものが設定されるかでも変わってくると思うのですが、質問と選択肢がわかりやすいような工夫が必要だと思いますので、その辺の留意をお願いいたします。
宮本委員	一般の私はこれだけ項目があると途中で嫌になってくると思います。もう少し集約して、簡単に回答できるようにならないでしょうか。そうしたら皆さんも出しやすいと思います。
梅谷委員長	やはり行政としては、これだけの質問項目が必要なのでしょうか。
事務局	実は第3次計画の時にはアンケートの設問は32問あり、それにぶら下がっているものもありました。それに新規の質問も追加で案としてお示しさせていただいているのでちょっと多いかと思うので、必ずとらないといけないという項目でなければ除いてもいいのではないかと個人的には思っています。
梅谷委員長	質問について、必要か必要でないかは、それなりに時間をかけて精査する必要があると思いますので、8月末の会議までに事務局で検討していただければと思います。
芦田委員	それもあるのですけれども、市のプロジェクトチームが今回の第4次計画の策定にあたって新しく出来て、立ち上がっていると聴いているいろいろな方の意見もポイントとして反映することで関わっている人達が納得できるようなアンケートになればいいのかなと思います。
事務局	プロジェクトチームというのは、市ではなく、社会福祉協議会の中で活動計画を作るためにできた策定チームでございます。
芦田委員	わかりました。 今日の会議にも出ておられる市の各部署も意見を得られるようなアンケートになっていればいいと思いました。
門林委員	最初の方に戻るのですけれども、1ページ目の9月の関係各課へ事業評価の照会というのは、このアンケートとは別なのでしょうか。
事務局	1ページに書いております、関係各課への事業評価はこのアンケートとは別に考えております。青色冊子の61ページから73ページまで

<p>梅谷委員長</p>	<p>に地域福祉関連事業一覧として地域福祉に関する各課の事業を載せているのですが、4次計画に移行するにあたって事業の整理ができればという意味で書かせていただいております。</p> <p>その事業評価については、この委員会の前半の部分で出たので今後、説明していただけるということで、今回はアンケートについての審議となります。その他、ご意見はございますか。</p> <p>そうしましたら、抽出方法は案②で行うということでお願いします。アンケート項目については、委員の方々からのご意見を踏まえるとともに、回答者のことも考えながら事務局で質問項目の検討をしてください。</p> <p>そうしましたら今の議題は以上で終了にしたいと思います。本日を振り返って委員の皆様から何かございますか。</p>
<p>有里委員</p>	<p>市民アンケートの質問項目が多いと思います。</p> <p>回答しやすくなるような創意・工夫をぜひお願いしたいと思います。</p>
<p>奥村委員</p>	<p>アンケート項目はまだ、たたき台ですよ。前回32問で、今回は新規が10問で、トータルで55問あるのでちょっと多いと思うので、答えやすいようにしてもらいたいです。それから、今日、勉強になったと思ったことはCSWで648件の相談実績のうち、20代から50代が40%弱、65歳以上が40%くらい、この2つを考えてみたら、バブル崩壊で就職氷河期で働ける人の数が減って、65歳以上は団塊世代ですから、日本社会の背景がすごく出ていると思いました。</p> <p>10年後、20年後にまた変わってくると思いますので、行政の考え方もこれまでの考え方で通る考え方と変えなければいけない考え方があると思います。我々医療の世界もそうなのですが、日本全体がどんどん変わっていかねばついていけないと思いました。</p>
<p>梅谷委員長</p>	<p>その他、ご意見はありますか。</p>
<p>芦田委員</p>	<p>作成できたその内容がどう市民と関わり合いができるかというところが一番のポイントになると思います。最近、地域でいろいろな活動をしていると、地域住民の困りごとや要望など、いろいろな話を聞きます。しかし、会議になると、そういった話がなかなか出てこないのので、我々が会議の中などでそのような声をどう届けることができるの</p>

<p>梅谷委員長</p>	<p>か、いつも考えています。今後は、皆さんの困りごとなどを気軽に話せるような場所づくりが必要になってくると思います。たとえば、アイ・あいロビーにプラスして、CSWとの関係もうまくしながらそういった市民の方の声を聞ける場所ができればと思いました。</p> <p>計画づくりはもちろん大事ですが、作った計画を生かして実行していく行動に移すことも非常に重要だと思いますので、少し先の話になりますが、そういった視点もぜひとも事務局に持っていただければと思います。</p> <p>その他、ご意見はありますか。</p> <p>特にないようですので事務局にお返しします。</p>
<p>事務局</p>	<p>委員の皆様におかれましては、長時間に渡りまして地域福祉の課題等について、ご議論いただきましてありがとうございます。</p> <p>なお、次回の和泉市福祉でまちづくり委員会につきましては、平成30年8月29日（水曜日）午前10時、場所は当会場で考えております。また改めましてご案内させていただきますので、よろしく願いいたします。</p> <p>以上をもちまして、平成30年度第1回「和泉市福祉でまちづくり委員会」を閉会いたします。ありがとうございました。</p>